

ぎふ女性農業委員 ・推進委員だより

◆編集・発行 ぎふ農業委員会女性ネットワーク
会長 高田 禮子

<事務局> 一般社団法人岐阜県農業会議
〒500-8384 岐阜市萩田南5-14-12
TEL:058-268-2527 FAX:058-273-6177
E-mail:gifu@nca.or.jp

2019年3月27日
(第9号)

2018年9月21日、ぎふ農業委員会女性ネットワーク総会において、任期満了に伴う役員改選が行われました。新たに、高田禮子会長（本巣市）、國島まき副会長（輪之内町）、佐伯美智代副会長（白川町）、熊崎みどり副会長（下呂市）、川村信子監事（関市）、西尾ひろみ監事（恵那市）の役員体制となりました。本ネットワークによる研修や情報交換を通し、より一層女性委員の活動の強化やPRを行っていきます。また、2019年は6農業委員会、2020年は36農業委員会が委員の改選を迎えます。本ネットワークから農業委員や農地利用最適化推進委員の公募へ女性の推薦や要請を行い、両委員へ女性登用がより進むよう活動していきます。

本ネットワーク 新役員就任

2019年4月からの農委改選 女性登用促進へ
改選 2019年:6農委 2020年:36農委



川村信子監事
関市



熊崎みどり副会長
下呂市



高田禮子会長
本巣市



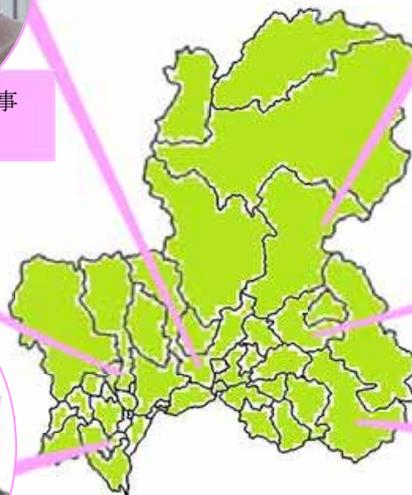
佐伯美智代副会長
白川町



國島まき副会長
輪之内町



西尾ひろみ監事
恵那市



ぎふ農業委員会女性ネットワーク地域別意見交換会・ランチミーティングの開催

2018年8月2日から10日にかけて県下5会場において、地域別意見交換会を開催し、女性農業委員・推進委員52名のほか、農業委員会事務局や農業会議など計82名が参加しました。

2017年7月の農業委員会統一改選で、一期目の女性委員が大きく増えたことから、交流と情報交換を目的に開催。



一年目のそれぞれの活動や悩みを共有し、二年目からの活動のヒントや気づきを得る機会となりました。

岐阜地域 本巣市糸貫庁舎
パレットピアおおの (LM)
東濃地域 セラトピア土岐
同所 (LM)

西濃地域 大野町役場
パレットピアおおの (LM)
中濃地域 ぎふ清流里山公園
同所 (LM)

飛騨地域 飛騨ともえホテル
同所 (LM)



ぎふ農業委員会女性ネットワーク総会・研修会の開催

2018年9月21日、みの観光ホテルにおいて、ぎふ農業委員会女性ネットワークの総会を開催し、女性委員38名、農業委員会事務局や東海農政局、県農村振興課、県農畜産公社など含め68名が参加しました。

総会では、29年度事業報告と決算、30年度事業計画と予算など決定しました。

総会後に「担当地区での“楽しい”集落座談会の進め方」をテーマに研修会を開催。先進事例として成果をあげる茨城県東海村農業委員会の進め方を、全国農業会議所の農地・組織対策部の永岡主事、農業会議の松浦係長の進行のもと、5〜6名ずつ12グループに分かれて体験し学びました。

ポイントは、①全体ではなく小グループでの話し合い、②本題に入る前に緊張をほぐすアイスブレイクや自己紹介、③参加者が見て

対話ができる模造紙大の資料、④明るいテーブルクロスによる会場の雰囲気づくり、⑤お茶やお菓子を用意、などです。一部の人の意見に偏らないよう、全員が意見をふせんに記入し順番に報告。似た意見や付け足し意見があればその都度出し合い、グループで共有、絞り込みを行いました。



女性委員からは「楽しく話し合いに参加できた」「みんなの良い意見が聞けた」「少人数でお互いの距離が近く意見しやすかった」

2019年3月27日(第9号)

と好評でした。この手法を参考にコミュニケーション能力の高い女性委員が活躍し、人・農地プランの実質化に向け、重要な位置づけである地区の話し合いを盛り上げ農地集積・集約に結びつけていきたいです。

東海・近畿ブロック女性の農業委員会研修会 in 静岡県への参加

2018年12月12日、滋賀県掛川市の掛川グランドホテルにおいて開催された東海・近畿の農業委員会女性組織主催の標記研修会に参加しました。

東海・近畿ブロックの女性委員や関係者など133名、本県からは、女性委員19名のほか、農業会議から1名が参加しました。

しずおか農業委員会女性の会の宮島会長から開会あいさつの後、6名1テーブルずつで昼食をとりながらの懇談会がありました。他

地域で活動する女性委員とお話ししながら、静岡名産のお茶やクラウンメロンもいただきました。

研修では、全国農業会議所の大出新聞業務部長から「情報提供活動について」の報告があり、高度利用栽培施設(底面コンクリ農地)や所有者不明農地の対応の紹介がありました。政策や制度が変わる中、全国農業新聞の解説や事例にヒントがあり、新聞しつかり読みましょうとお話がありました。

続いて、NPO法人とうもろの会の名倉理事長が「女性の力が農村を変える!」と題し講演されました。名倉さんは、名倉メロン農場を経営してみえ、農業委員を三期、しずおか農業委員会女性の会を発足させた初代会長でもありません。現在は委員ではありませんが、その経験も活かし、若手や女性など地域の農業者を応援する活動を続けてみます。地域の農業者の声を拾う「アグリポスト」がその一つです。自身も現在取り組んでいるメロンの加工や農家カフェに

ついて、最初は家族にも言いづらくなかなか言えなかったとのこと。この経験から、やりたい気持ちがあっても家族にも言えないことの背中を押ししたり、届いていない声をひろい届けたいとの思いから始められました。声を聞くだけでなく、計画がないと夢は実現しないと、家族経営協定や認定農業者の経営改善計画に盛り込むことまでアドバイスをされています。

女性委員の業務は転用など農地の案件だけじゃない、地域の農業者の、特に女性の、やりたいことを応援しよう、と勇気づけられるお話でした。

女性農業者の応援を語る名倉理事長



講演後には、グループごとにしずおか農業委員会女性の会が作成した食育カルタでカルタ大会を実施。それぞれの絵札は、静岡県内の農産物や食に関する絵柄が鮮やかな切り絵となっています。

取った札数の上位から農産物などの景品が贈られ、大盛り上がりです。楽しい時間を過ごしました。

読み手の声を真剣に聞く参加者



次回のブロック研修会は、2019年11月28日に京都府で開催されます。

静岡県周智郡森町
(有)佐野ファーム視察研修

東海・近畿ブロック女性の農業委員会研修会の開催に合わせ、翌日12月13日に、静岡県周智郡森町(もりまち)の有限会社佐野ファームにおいて視察研修を行いました。

同社専務取締役で町農業委員も務める佐野敦子さんとの意見交換と農場の見学をさせていただきました。意見交換はインタビュー形式とし、参加者全員は1個以上、手を挙げて質問し、答えを聞きながら理解を深め活発に勉強してきました。質問は、経営のこと、農業委員のこと、農家生活のこと、有機野菜の技術のこと、と多岐にわたりました。

佐野さんは森町農業委員二期目。14人のうち3人が女性委員で、推進委員はいないとのこと。女性だけの活動はないが、総会では質問、女性委員はわからないことをちゃんと質問するようにされて

ており、意見しやすい雰囲気が出てきているとのこと。任期中は「わたしたちがいる意義をもって頑張る」と、個々にしていた現地確認を男性委員含めチームで毎月総会後の流れでいくように提案するなどされていました。



法人の経営では、露地野菜28畝、施設野菜0.5畝などを社員20名、パート5名で生産。有機JAS、JGAP認証などで高品質な野菜づくりをされています。

同町は、トウモロコシ←水稲←レタスの三毛作で水田三倍活用が有名な産地です。水稲は個人の方や担い手がつくり、同社は期間借地(冬季だけ利用権設定など)で土地を預かってみえます。

家族経営から法人化し初めて従業員を雇用した際に一億円の売上目標を作成され、達成には田んぼが何枚でどの野菜を年間どれだけ必要かあらためて計算。当時はそんなにできるの、と計算してびっくりしたそうです。とにかく目指すには人が足りない、人が大事、いい野菜つくるには、いい人を育てると今の経営の基礎になったとのこと。現在は平均年齢35歳、農大新卒もたくさん、利益は社員へ賞与で還元し、頑張りを評価し、やる気アップさせているそうです。産休育休もあり女性社員は子育てしながら務める環境もつくつてみます。社員で力を合わせて、地域の農地を預かって野菜をつくるのが地域貢献につながるお話しをいただきました。

佐野敦子さんを囲んで集合写真



女性農業委員登用促進研修会への参加

2019年1月9〜10日、東京都「主婦会館」において標記研修会が開催され、女性農業委員や都道府県農業会議職員等132名が参加しました。本県からは、県農業会議が女性農業委員登用促進アドバイザーに委嘱している「ぎ

2019年3月27日(第9号)

ふ農業委員会女性ネットワーク」の高田会長、國島副会長、佐伯副会長、熊崎副会長と事務局が参加しました。

研修会では、農水省農地政策推進課の押切課長から「農地利用の最適化に向けた農業委員会の取り組みについて」と題して講演。農地中間管理機構ができて5年、農地集積・集約できるベースがあつたところがだいたい終わり、ゼロから次の集積・集約をつくっていくには話し合いからもう一度活性化が必要と説明がありました。具体的には、人・農地プランの見直しの協議の場で、誰にどこを集積するのか地図を使って話し合い、見える化された中身のあるプランをつくるということです。プランの話し合いには委員の力が必要でますます役割が重要になると感じたところですよ。

続いて、いわてポラーノの会の安藤会長から「女性委員の登用に向けて」いわてポラーノの会の取り組み」と題して講演。平成1

1年に12名の女性委員で設立し、現在は106名となったポラーノの会についてお話されました。現職の女性委員は次期も継続することを早期に表明することや、退任する場合は必ず後任を探すことをルールにされていました。他にも女性限定トラクター講習会の開催など女性向けの研修会で、委員へスカウトなどもされているそうです。



情報提供では農業者年金基金西理事長から「農業者年金の加入メリットと加入促進について」の説明もあり、岐阜県でも家族経営協定締結とあわせてより一層進めてまいります。

全国農業会議所の農地・組織対策部の永岡主事から情勢報告「女性登用の状況を再確認」があつた後、グループ協議も行われ、24のグループに分かれ、全国各地の女性委員と「わがまちの女性の農業委員、推進委員を増やすアイデアをだしあおう！」のテーマで話し合いをしました。女性の少し前になる気持ちを後押しする、あらゆる人に聞くと以外と名前が上がってくる候補者を本気で探す、候補者を探す目線をもって日々の活動をする、候補者が見つければ家族・男性の理解をもらったり、地区の男性委員に応援してもらおう、など意見が出されました。委員への女性登用の意識がより高まりました。

全国農業委員会女性協議会の2018年度総会への参加

2019年1月10日、東京都「主婦会館」において、女性農業委員登用促進研修会に引き続き標記総会が開催され、各県の女性農業委員組織の代表などが参加しました。本県からは、ぎふ農業委員会女性ネットワークの高田会長、副会長3名と事務局が引き続き参加しました。

総会では「平成30年度の活動報告の承認」「平成31年度活動計画の策定」、本年度から新たに「会費の賦課徴収について」が原案どおり決定されました。また、任期満了に伴い「理事および監事の選任」が協議され、新たに横田友(埼玉県会長)さんが会長に、高田禮子(本県会長)さんが理事に就任しました。

**第15回女性の農業委員会
活動推進シンポジウムへの
参加**

2019年3月6日、東京都「砂防会館」において標記シンポジウムが開催され、女性委員など約490名が参加しました。本県からは、委員11名、農委事務局2名、農業会議1名が参加しました。

(一社)ファシリテーター普及協会の釘山健一代表が「農業の未来は明るいぞ！〜これからの農業は女性の笑顔と楽しい対話が変わる〜」と題して講演。まちづくりでも農業でも共通するポイントがあると力強く説明されました。特に、農業に興味をもっている人は農業者以外でいっぱいおり、対話することで一緒にできる、やれることがたくさんあるとのこと。女性が入り、こりかたまった考えが変わると地域もよくなつていくはずとお話しされました。

その時ポイントとなるのが、楽しく、笑顔で話し合うこと。これ

がないといいアイデアはでないといひます。楽しくするための工夫として、隙間が心の距離を生むため口の字型で会場づくりをしない、部外者をどんどん入れる、話す会議をやめ書く会議にして、出るアイデアを5倍に増やすなど。



続いて行われたパネルディスカッションでは「農地利用の最適化を実践しよう」のテーマで、①茨城県茨城町農業委員会の箭原会長、②福井県小浜市農業委員会の西田会長、③熊本県錦町農業委員会の

石松会長、の3名が事例報告。現場を歩く戸別訪問から最適化推進が始まる、アンケートは各家ごとに3名まで回答させ後継者などの意見も把握する、アンケート結果は農委だよりでフィードバックする、など集積・集約につながった取り組みの紹介がありました。

最後にシンポジウムのアピール採択が満場一致によりされました。シンポジウム終了後、岡山県の女性農業委員など11名と意見交換会を行いました。



また、翌日3月7日には、岡山県と合同で、(独)農業者年金基金を訪問し、基金企画調整室の矢野専門役、三上主査から「農業者年金制度と農地利用最適化推進」について説明を受け、加入推進する上での疑問点などを質問し理解を深めました。

**全国農業新聞普及
31年4月〜6月強調月間**

本ネットワークでは、31年4月から6月の3カ月間を全国農業新聞普及の強調月間に設定し、女性委員による購読申込みを進めてまいります。農地集積・集約のヒントとなる優良事例や取り組みがたくさん掲載されている全国農業新聞をすすめることで、農業委員会に理解者を増やしていきたいでしょう。見本紙や申込書、パンフレットが必要な方は農業会議までご連絡下さい(電話〇五八・二六八・二五二七)

2019年3月27日(第9号)

レシピサイトCookpadの公式キッチン「全国農業新聞の献立♪」では農産物のことを知りつくした女性委員の自慢のレシピを公開しています。全国農業委員会女性協議会は、各県の女性委員のレシピを募集しベストレシピグランプリを開催しました。岐阜県からは、川辺町の山口文江さんが伝承料理の中から「五平餅」を応募されました。



Cookpad
全国農業新聞の献立♪
川辺町の山口文江委員
五平餅 準グランプリ



昨年8月から今年1月25日までの累計アクセスで全23点中、見事準グランプリに輝きました。山口さんは地元で採れた食材で、季節ごとに料理のいわれや背景を大切に作る伝承料理を、伝え受け継ぐ活動をされています。今回、五平餅が準グランプリになったのは連続テレビ小説「半分、青い。」の効果もあったと山口さん。本当におめでとうございます。

農業委員会は活躍する女性委員を求めています

●県内でたくさんの女性委員が活躍中です

女性農業委員 93名 女性農地利用最適化推進委員 10名

●農業委員は①～③を満たすように市町村ごとに推薦・公募で選ばれます

- ①過半を原則として認定農業者とすること
- ②農業者以外の中立的な立場の方を1名以上入れること
- ③女性・青年を積極的に登用すること

●任期は3年です(任期満了を迎え以下のとおり改選が予定されています)

2019年 4月「山県市・各務原市」 5月「瑞穂市」 7月「飛騨市」

10月「下呂市」 11月「恵那市」

2020年 3月「郡上市」 7月・8月「残り35市町村」

委員に挑戦しませんか？



農業委員会はこんな活動をしています

農業委員会は、農業委員と農地利用最適化推進委員が協力して、農地が遊休農地にならないように、耕作できる担い手などに集めていく取り組みを中心に活動しています。

農地利用の最適化の推進



- 担い手への農地の集積・集約化
- 耕作放棄地の発生防止・解消
- 新規就農や企業参入の促進

農地の利用状況調査



- 担当地区の農地パトロール
- 遊休農地所有者への耕作の意向の確認

市町村長などへの農地利用の最適化の推進に関する意見書の提出



- 担当地区での活動をもとに意見をあげます

農地法等に基づく貸借や転用の許可・意見



- 総会での審議

農業経営の合理化の支援

- 農業会議と連携して
- 農業者年金の加入推進
- 法人化の相談
- 複式農業簿記の支援



農業者への情報提供活動



- 農業委員会だよりの発行
- 全国農業新聞の普及活動

購読のお申し込みをお待ちしております

全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会組織が発行する農業総合専門紙です。「週刊」の時間を生かし、情報がわかりやすいよう解説的にまとめています。

毎週金曜日発行 月700円/年8,400円
お申込みはお近くの農業委員会まで



<編集後記>

山口さん準グランプリおめでとうございます。4月から農業委員会の改選が始まります。女性委員の活躍や明るい話題を発信し、登用が少しでも進めば嬉しいです。 M

編集
発行

ぎふ農業委員会女性ネットワーク 岐阜市藪田南 5-14-12 県シンクタンク庁舎 2階
事務局・一般社団法人岐阜県農業会議
TEL:058-268-2527 FAX:058-273-6177 E-mail:gifu@nca.or.jp URL:http://www.gifu-agri.jp